

# 文書・視聴覚による

## 広域の教化を促進するため

文書伝道は寺と檀信徒間の布教と通信というパイプ的なものであるにせよ、伝道をして檀信徒を含めての、人をして社会生活をスムーズにする潤滑油的役目を果すものまでにいきたいものである。読む人、聞く人により、より良き教訓を学ぶことが出来ると考える。一人に宗教的教養を高める一助になる―此の様な文書伝道へともっていききたい。

○伝道内容には、次の二面があらうと思う。

(一) 学術的研究  
(二) 大衆啓蒙

- 文書 (パンフレット etc)
- 映画 (ビデオ etc)
- 絵画 (仏画、紙芝居 etc)
- その他 (寺↓檀信徒の手紙)

― 宗教的内容を織りこむ ―

◎現代における文書伝道布教の問題点

〈新聞・雑誌〉 ↓ 〈テレビ etc〉

文字 ↓ 見聞

故に ○宗教的要素を織りこんでテレビ、小説等の布

教

○宗祖の童話、創作劇等の必要性があらう

△大規模な布教活動の必要性

△青少年への呼びかけ、↓文書視聴覚活動の認識

将来全宗門が取り組むべき問題である。

移っている

# テレフォン説教実験報告

## 1. 設置方法

- 一、名称 テレフォン説教「地涌の声」
- 一、メンバー 現在員五名
- 一、設置場所 北九州市 真浄寺
- 一、開始日時 昭和五十五年三月一日
- 一、説教タイム 二分三十秒〜三分
- 一、説教サイクル一週間単位（日曜から土曜まで）
- 一、放送時間 二十四時間
- 一、費用 電話機（着信用）四万八千円  
テレフォンサービス機十六万二千元（取り付け料共）  
専用テープ一本に付き 千五百円
- 一、経費 一ヶ月 基本料金 二千六百元
- 一、受信回数 現在一ヶ月約千回
- 一、宣伝方法 シール五千枚発行 二万五千元
- 一、キャッチフレーズ 週に一度は心の洗濯

## 2. 設置理由

## 一、布教伝道の現代化

- 一、十円玉で気軽に聞ける説教方法づくり
- 一、手づくりの布教をする
- 一、教師の連帯感づくり
- 一、未信徒、他宗信徒への窓口

## 3. 説教内容

- 一、日蓮宗的なものにこだわらない
- 一、現代的問題をとりあげる
- 一、子供が聞いても分るようなもの
- 一、法華経精神を普遍化する
- 一、地域、地方的特色を盛りこむ

## 4. 設置資金

- 一、一口千円の資金カンパを檀信徒に呼びかける

## 5. 活動計画

- 一、年に二回、既放送分のテレフォン説教をまとめパンフレットを発行する
- 一、檀信徒の中にテレフォン説教後援会を組織し、年会

費千円とし、これを活動資金とする

一、後援会会員を対象とする大会を計画する

一、単にテレフォン説教にとどまらず、伝道方法の近代化をめざす

## 6. 将来の課題

一、永続的にテレフォン説教を続けるためには、常に利用者の意見、感想を調査し、それを討議、研究してマンネリ化を防ぐ

一、他地域の教師にも呼びかけ、テレフォン説教設置を勧め、これと連携、研究しあつていく方法を考える

一、宗教の社会的機能が低下している現代、あらゆるメディアを利用して布教伝道する方法を考え、教義の日常化、生活化を促進する方法を考える

一、布教活動を単なる宗門内活動にとどめることなく、社会福祉的ボランティア活動も研究し、これに参加する可能性を検討していく

## 7. 結び

一、テレフォン説教は現代版「辻説法」と考える。大衆が気軽に仏教に接することができ、お寺を教化の場として再認識してくれる伝道方法の一つであると思

△中村潤一▽